



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：ターリバーン、大統領選挙決選投票について声明を発表

アフガニスタンで6月中に予定されている大統領選挙の決選投票について、ターリバーンが「選挙についてのアフガン人民宛メッセージ」と題する声明（6月1日付）を発表した。声明は、「選挙の真の目的はアメリカ率いる西洋諸国がアフガンからイスラーム統治を除去し回復不能にすることにある」と断じ、「現在の危機を脱する道は完全な独立の獲得とイスラーム統治の実現であり、選挙ではない」と主張した。その上で、「第1回投票の折にムジャーヒドゥーンが多数の攻撃を実施して投票所を破壊したのと同様、決選投票の際にも投票所とその職員を襲撃する準備ができています。（攻撃により）殺傷されるのを避けたければ投票所から離れるべきだ」と脅迫した。

ターリバーンは、これまでに大統領選挙に参加する者への脅迫・警告（3月8日）、選挙後にアフガンの危機は一層悪化するだろうとの論評（5月22日）などを発表しており、一貫して今般の大統領選挙を拒絶する態度をとっている。1日付の声明も、このような立場を維持したもので、決選投票の期日までの間投票所や選挙関係者への襲撃が増加することが予想される。また、ターリバーンは5月12日から定例の春期攻勢を「ハイバル」と命名して開始しており、この攻勢では外国占領軍の軍事拠点、外交使節、車列、占領者を助ける傀儡どもの軍事施設、国防省・内務省・情報機関、傭兵・民兵の拠点と車列が標的として例示された。その一方で、春期攻勢は「民間人の物心両面での被害を防ぐ戦術を採用」と表明している。以上から、決選投票関連でターリバーンが攻勢を強化する場合でも、投票所や選挙運動を標的とする可能性と並び、外交使節や外国人関連施設、中央官庁の庁舎などの象徴的な対象を襲撃し、アフガンに駐留する外国部隊やアフガン政府の無力を印象付ける作戦を行うことにも警戒が必要である。

（イスラーム過激派モニター班）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799